

東海聖会報

「成長させてくださる神さま」

岩本 助成

「ですから、大切なのは、植える者でも水を注ぐ者でもなく、成長させてくださる神です。」

(コリントの信徒への手紙 一、3:7)

『コリントの信徒への手紙一』3章の最初の9節から、「肉の人」と、「神様の恵みによる成長」という二つの言葉にしぼります。

まず、「肉の人」について。使徒パウロは、すぐれた牧会者であったと考えますが、理由の一つは、彼が、肉の人、「キリストとの関係では乳飲み子である人々」の霊の養育に励んだことです。教会内の肉の人は、パウロやアポロを頼りにグループを作り出し、相手のグループを攻撃し始めます。

そのような肉の人に対して、「パウロもアポロも、ただの人ではないか。彼らがあなたがたのために十字架にかかったか。贖いの死をとげたのはわたしたちか。決してそうではない。」と、パウロは、心をこめて語りかけます。

人を「人として敬愛すること」は大切なこと。しかし、「神様をあがめるように、人を偶像化してしまうところ」に罪が生まれます。岩下壮一神父は、「人間の分際」と言われました。人には人の分際があります。主は、パウロやアポロを個性と多様性に創造されました。また、すぐれた器も、所詮、「器」であって、中身の「宝」ではありません。宝と器を取り違える愚か者はいませんが、教会においては、そのような混乱が起こりやすく、それが、信仰の成長を阻害します。その一例が、コリント教会での「分派問題」です。神様を神様とする「信仰のけじめ」が、わたしたちの教会に確立していなければなりません。「きよめの恵み」とは、主のみを誇りとする教会形成に、ひとり、ひとりがあずかり、成長させていただく恵みのことです。

第二は「信仰の成長」というテーマ。この聖句を、フィリップスは、「種を成長させなされたのは、神様

です。種にいのちを与えられる御方と比べるとき、植えた者も、水を注いだ者も、比べものになりません。」と訳しました。

「成長」と云っても、身心の成長、知的な成長、社会的な成長など、いろいろな成長があります。ただ、共通している点は、「ある点、ある出来事に絞って見るよりも、時間の経過で見る。点よりも、線や面で見ることです。悔い改めやきよめの恵みを、「点」として証しされるときも、大きな恵みにあずかりますが、同時に、そのような恵みの体験には、かならず、その前後の歩みがあることを教えられます。「成長」に注目するとは、好調なときも不調なとき、喜びにあふれるときも、悲しみのときも、平凡なときも、「すべてを等しく見る」ことです。「忍耐深い愛と寛容をもって、時間をかけて、相手の成長を待つ」ことです。

「成長させてくださるのは神様！ 救い、きよめてくださるのは、神様であって、人ではない。ひたすら、神様のみを信じて仰ごう。あの人、この人を、まるで神様のように見つめるのは止めよう。愛と忍耐をもってわたしたちを待ち続け、成長を与えてくださり、全き愛にみたしてくださるのは、神様だけだ！」という信仰に立つことです。

ジョン・ウェスリが、生涯、繰り返し語った聖句があります。それは、「人には出来ないが、神様にはできる」という聖句でした。時には、「愛の成長も、きよめの道も難しい。多くの人々に出会うが、きよめの実は実に少ない。」と嘆きます。では、ウェスリが「純朴で、やさしい、忍耐強い愛」と呼んだきよめの恵みは、与えられないのでしょうか。いいえ、「人には出来ないが、神様にはできる」のです。神様は、信じて求める者に、日々、成長して止まない霊的な成長を与えてくださいます。成長しない自分に気づいて落ち込むとき、自分やほかの人ばかりを見て、うなだれるとき、この聖句を聞き直しましょう。聖霊なる神様が、主にある皆様方にも、このわたしにも、「成長させてくださる神様」をはっきりと指し示し、信じさせてくださいますように！ アーメン。

(日本フリーメソジスト西田辺伝道所 牧師)

第16回遠州聖会「響け！この福音」

2012年2月26日、遠州支部「第16回遠州聖会」がテーマ(聖めの恵み、個人と共同体)が掲げられ、インマヌエル浜松教会で午後2時30分から開催されました。

講師は、第18回東海聖会のご用に当たられました川崎 豊師(ウェスレアン・ホーリネス教団 野田キリストめぐみ教会牧師)が、テサロニケの信徒への手紙一 5章16～25節から『響け！この福音』の説教題で、御言葉を取次がれました。

遠州近隣の教会から聖日の午後、御言葉を慕い、きよめを求めて126名の兄弟姉妹が集いました。川崎先生は北海道で牛2頭から開拓農場を始められたクリスチャンホームに生まれ育ち、両親が開墾のめに野火をしておられたときに火が隣の畑に燃え移り、火の中で畑の真ん中で土下座して祈っていたら、風向きが変わり類焼を免れた。その様な証しの中で信仰を継承され育てられた。現在9人の兄弟は、インマヌエル・日本キリスト教会・ホーリネス・単立・日本イエス、全員がクリスチャンホームであります。先生はヴァイオリンの譬えから、弓が弦に触

れたときに音色を発するが、私たちは祈った時、神様に触れられた時に、本当に良い音色を、キリストの香りを、福音の素晴らしさを奏でることが出来るか、教会の中で、地域の中で福音をキリストの香りを響かせているかとチャレンジされ、信仰に立つ、御言葉に立つ神様に委ねると言うのは聖霊の助けなくしては出来ないと語られた。川崎師は神学生時の体験や教会に遣わされてからの経験等をたくさん語られ、きよめの重要性また、ホーリネス信仰の継承をねんごろに語られた。最後にジョン・ウェスレーが「いつも喜び、祈り、感謝している人」この御言葉に生きている人がよめられた人の証しであると紹介された。喜びと感謝の間に祈りがあり、祈りを通して喜びと感謝と与えられる。朝ごとに密接に神様と交わりを持つこと、祈りを愛するものは神様を愛するもの、私たちは祈りを通して神様からの力をいただき、そこにきよい生活の保持と継続があると語られました。

(遠州キリスト教会牧師 三輪保志)

本の紹介

「小林和夫著作集」

「小林和夫著作集」が刊行され始めたのは2010年4月であった。1～3巻が4月、9月、12月に発行され、4～5巻が2012年5月、12月に出され、6巻が2012年3月に読者の手に渡った。

この著作集の著者小林和夫師は、日本ホーリネス教団東京聖書学院元院長、学院教会牧師である。すでに「栄光の富」(全4巻)の著作を通して組織神学的主題を説教された牧師として、福音派だけでなく日本基督教協議会系の教会や牧師からも注目されたり、尊敬されたりしてきた。著者は1933年生まれであるので、現在79才である。

さて、この著作集の内容は、徹底して聖書的である。あるいは誰に向けて書かれた文章かという側面から考えると、信徒を養うためのメッセージであり、5～6巻などはFEBCの放送伝道で一般大衆に語られたものである。それ故に、まことに平易であって、キリスト教信仰の初歩にある信徒でも求道者でもよく理解できる。

1～3巻は、「聖書66巻のキリスト証言」であって、？言1篇、旧約聖書63篇、新約聖書43篇、合計107篇の説教が収録されている。創世記からヨハネ黙示録までに救い主イエス・キリストがどのように示され、証言されているかを伝えている。

4巻はヨシュア記、箴言、イザヤ書6章講解である。とくに箴言は主題別に講解されていて、みことばがよく理解できる。

5～6巻は詩篇講解である。1～72篇までが取り上げられている。ラジオ放送で大衆に向けられて伝えられたものとはいえ、内容が水増しされているとは思えない。

この著作集の魅力は、巻末にある解説にあるような気がする。郷家一二三師、中島真実師、横田法路師、石原潔師、鍋谷堯爾師、加藤望師が執筆されていて興味は尽きない。発行元はいのちのことば社であり、定価は4000円～4800円＋税である。

(松浦 剛)

まよめの仲間誌

その式

インマヌエル 岐阜キリスト教会

牧師 渡辺 真理



当教会は1970(昭和45)年8月に開設されました。中京教区では2番目、岐阜県唯一のインマヌエル教会として、42年目を迎えております。何度か集会場を移転して、2002年2月、現在の場所(岐阜市茜部大野)に新会堂が献堂されました。今年で10周年を迎え、2月には感謝礼拝を持ち、教会員一同で感謝の塚を立てることがゆるされました。教会堂は、国道に面しており、JR岐阜駅からバスで10分、最寄りのバス停が教会の目の前にある、とても良い立地条件に建てられております。教会員は現在、

60代以上の方々为中心であり、以前に比べて教会活動は縮小傾向にあります。現在、教会学校は休止しており、礼拝と祈祷会を中心とした教会活動です。しかし、この教会には開拓当初からの教会員がおられます。礼拝出席のために岐阜県内から、2時間近く車を運転して、また交通の不便な所から電車等の交通機関を利用して集まれる方が多くいます。この真実な教会員によって、岐阜教会は存立しております。牧師が目指していることは、教会の方々及各集会を通して、恵まれて教会から派遣されて、家庭や職場などの日常生活において、主の証人として用いられることです。そして教会の方々のありのままの姿を通して、イエス様のすばらしさが接する方々に浸透していくことを願っております。私たちは、日常生活からホーリネスのすばらしさが証しされていく教会を目指していきたいと思ひます。

チャーチオブゴッド 錦キリスト教会

牧師 渡辺重光

錦キリスト教会は1973年アメリカ人婦人宣教師によって開拓され、39年の歴史を刻んでいます。この間、幾人もの若い伝道者が協力者として遣わされ、宣教が進められてまいりました。紀伊半島中南部に位置する錦は前には海が広がり、後には山が迫っている風光明媚な人情の厚い漁村です。ただ若者の多くは高校を卒業すると、他県に出ていき必然的に高齢者の多い町となっています。

そこで私たちはこの地域ならではの伝道を模索しながら励んでいます。その一環として、「日本の唱歌を歌う会」「映画会」など、地域との関係づくり、また伝道集会やコンサートの開催などを通し、町の方々を教会にお誘いしています。また、子ども集会や、小学校での絵本の読み聞かせなどを通し、その絆を大切にしています。

教団の10年ビジョン「4人でひとりを！」
中風の人を4人で担いでイエスさまにお連れしたように、各自がそのひとりとなって隣人を教会へ導くことができるように。

創立者の宣教のスピリットを継承し、それぞれの賜物が教会で生かされ、地域に根ざした教会を目指しています。



19th 東海聖会

テーマ「きよめと成長」

講師 岩本助成師

1931年、大阪生まれ。8歳のとき、母の導きで日本基督教団大道教会において受洗。伝道者の召しを受ける。大阪基督教学院卒。米国フラー神学大学院卒。大阪基督教学院院長、日本フリーメソジスト教団理事長を歴任。現在同教団西田辺伝道所牧師。ジョン・ウェスレーの研究者であり、霊的指導者である。



とき

6月23日 土 2:30PM

6月24日 日 2:30PM

東海聖化交友会

〒453-0053 名古屋市市中村区中村町7-46福音センター

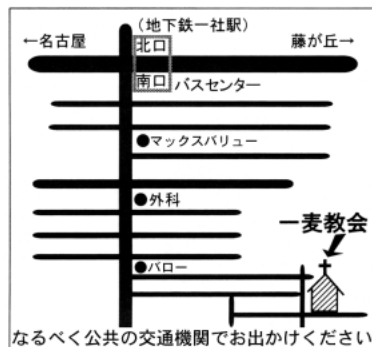
☎ 書記 / 0562-97-6468

ところ

活けるキリスト
一麦教会

名古屋市名東区亀の井2-102

☎ 052-701-4221



学びの時 牧師を100倍楽しむ法

今回のTHA総会の学び会では、壇原久由師(日本ホーリネス教団安城キリスト教会牧師)が、ご自分の牧会理念に影響を与えた細見剛正牧師、日本の教会への問題意識、そして、きよめに関する神学的探求の3つを柱に講義をしてくださいました。

「苦労は向こうから勝手に来る。無理に買うな。」という、細見師のだらかな牧会姿勢を信仰の基礎に置かれた壇原師。神学校での体験を通して「きよめられた人」の定義に悩む中で、神はどのような人間をも用いられるのだろうか、という問いが生まれたといいます。その解決を、ウェスレアン・アルメニアンに立つ神学的客観性に求められました。そこには、牧師の人格よりも任職や sacrament を重視するメソジスト神学があったということです。また、人格を破壊してしまうのではなく、人間性を肯定しつつ癒していく、東方教会にも似たウェスレーの神学的理解から、どのような牧師をも受け入れていくこと、そして人間性の回復という大きな視点に目が開かれた

そうです。

これらのことから、牧師が見過ごしがちな家族団欒や遊び、学びの機会を持てるように配慮すること、また、病気の原因となり得る過剰な公私混同と未発達な休暇制度について、問題意識をもって改善に取り組む必要を感じている、とお話くださいました。

最後に「福音を良いものと思ったら、そんな風に語らなければならない。」と仰った言葉と、そのように生きておられる先生のお姿が深く心に残った学び会でした。

(古田大展)

お
説
び

この聖会報は4月中に、皆さまのお手元に届く予定でした。そのようなスケジュールで岩本先生はじめ執筆者の方々に原稿をお願いしていたのですが、私の力量不足で1ヶ月も発行が遅れてしまいました。お詫び申し上げます。